

87'

新人合宿報告書



信州大学山岳会

No

Date

モくじ

5月31日(日)

出発	5:45	<モリ
二俣	6:20着	晴
	6:25発	"
一沢舎	7:20着	"
	7:30発	"
岩魚留	9:20着	"
	9:30発	"
徳本峠	12:40着	"
	15:00発	"

感想 徳本峠までの坂が地獄だった。ちおしても立止まりのまま眠ってしまっていた。しかし一番で登ったのは、橋に走ったけど滑ってしまった。

— 服部 —

6月1日(月)

出発 6:14
佐沢(橋) 7:08
 (橋) 7:42
又白土合(橋) 8:08
 (橋) 8:40
BC(橋) 9:30

天候

○
○
○
○
○
○

感想

横尾の橋を渡ってからの川原が長かった。
足を痛めないように注意した。
前穂の空容に圧倒された。天気が良く稜線がくっきりと
目に焼き付いた。

6/2 (火)

新人合宿 A 10 時 -

×バー	リ-ター	三野 さん
		豊田 さん
		小野 さん
		作道 さん
		守藤
		三矢
		伊藤
		小久保

加藤
松下
朝見
小林

出発	3:47
横尾右役正面着	4:45
： 発	4:55
羽天着	5:45
雪訓開始	6:30
： 終了	10:00
3.4の2人着	10:20
： 着発	11:55
： 発	12:40
羽天着	2:10
： 発	2:20
Bに着	3:10

感想

始めの雪訓で先輩方の温かい声で、自己嫌悪に
取りつかず、3.4の2人は無事行くことができたことに
満足していました。

6/2 (火)
新人合宿 B-P-T

メンバー

リーダー 瀬川 弘
 中村 弘
 内田 弘
 平林 洋山 桶結 九後
 松園 桐原

お目付 角谷

出発 3:45
 横尾右衛門着 4:36
 4:46

溜沢 着 5:55
 雪崩開始 6:20
 終了 9:45

3.4の工ル登山出発 10:05
 着 11:26
 12:10
 溜沢 着 1:45
 1:56
 B.C 着 3:06

感想 雪崩のしどせよしも、3.4の工ルへ登ったことが
 と2もしどかた。ごも 富士山まで 行ったのが 好き

記録 桶結

6/2 (火)

新人合宿

Cパーティ

X>バー

リダ

飛田 弘
 中村 弘
 下耳 弘
 北服 部
 牧野 井
 榎飯 島
 岡部 山
 杉下 田 弘

お目付

出発	3:50
横尾右保 ^着 面 ^着	4:50
"	5:00
涸沢カール ^着	6:00
雪訓開始	6:30
" 終了	10:55
3-4の ^着 コル ^着	11:55
4峰	12:15 ~ 12:30
カール ^着	14:20
" ^着	14:30
BC ^着	15:40

感想

初めての雪訓でかなり疲れた。
 3-4のコルへの急登は特に辛い。
 下りも急なもので少し怖かった。

6/3 (木) 新人合宿 Aパーティー

メンバー	リーダー	三野 さん	
		たかし さん	
		ゆきのり さん	
		内田 さん	
		牧野	松岡
		平林	飯島
		服部	田部
		北沢	山浦
		桜井	平山
		杉山	結

3:45 出発
 4:35 横尾右保正面付近 着
 4:50 " " 発
 6:05 涸沢 着
 6:55 ザラテン左下で雪訓開始
 10:30 ? 雨やどり
 11:15
 11:20 雪訓開始 ~ 13:00
 14:20 テン場 着

感想

雪訓中に雨が降り、とても暑かった。そのせいか足動がダラダラしてきて先輩たちにおこられることが、もっと気合を入れよう。

6/3 新人合宿 B110-111

A110-111 リーダー 豊田さん
小野さん
作道さん
おめがけ 下田さん

三矢 伊藤 朝 小田原 松下
天藤 見
安藤 丸後 小久保 西藤 小林

3:46 出発
4:49 横尾右俣 正面付近 着発
5:00
6:20 涸沢着
7:05 サイコロ石下 で雪訓 開始
10:30 雨止り
11:15
11:20 雪訓 開始
13:00 終了

14:20 (A110-111, B110-111 は"5は"5に着)

感想

雨がふって、かたがたふらふらに寒くて
カセ"をひくか"と見た。

6/3 前穂IV峰正面壁 北条・新村ルート

ムビタ、ミモヒラ、

- ・ 前日・涸沢でビター7 (小屋の人の厚意により小屋内に泊まり) 朝まで大雨が残り、しばらく待機する。

4=50 ◎ 涸沢

5=50 ◎ 5.6のコル

8=20 ●* 3.4のコルルニゼ入口。

* ガスと小雨が晴れを待たなく中止決定

9=00 ●* 3.4のコル

9=30 雪訓隊と合流。

- ・ 5.6コルからの下りが急である。
奥又白谷へ抜けるルニゼは簡単に抜かれる。
4.5のコルからの落石に注意。
雨の降りやむ天気はうらめしむた (おトビ)

6/4 (木) 新人合宿 A PARTY

MEMBER

L,

三野さん
小野さん
下野さん
安藤
丸後
松下
松尾
小林
服部
小田原

BC	4:10
横谷との分枝	5:10
湖沢	6:25
雪訓	~~~~~
登頂	12:20
BC	16:45

6/4 (木) 新人合宿 B PARTY

MEMBER L, 安田さん
飛田さん
下田さん
楠結
平林
杉山
北沢
浦山
杉井
平間

BC発	4:10
調沢	6:30
雲川終了	9:20
朝見滝	10:50
北穂頂上	11:40
調沢	15:30
BC着	17:10

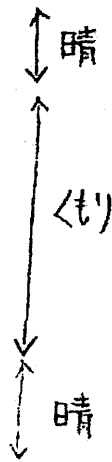
6/4 (木)

新倉宿 C PARTY

MEMBER L

中村 工 玲 さん
内田 さん
古賀 さん
牧 野
朝 見
飯 島
小久保
平井
加 藤
岡 部
伊 藤

BC	4:05
横尾 裕 之 命 枝	5:05
淵 沢	6:05
北 穂 沢	8:55
雪 言 川	10:30
北穂沢の途中休憩	11:30
北穂 山 頂	12:30
淵 沢	4:05
BC	5:00



6/4 Dparty Lo. 中村 702 . 作道 屏風岩 雲後ルト

- 4:00 ○ B.C. 泥
- 5:40 ○ T4 尾根 取り付
- 7:30 ○ T4
- 10:30 ○ 大うま岩行入

時間短縮して下降を決定する。
702に上り 次々人工のピッチを登る。

16:20 ○ B.C. 着

残念。 実力不足を思ひ知らされた。(作道)

6/4 天気 ○

11:45 スティンク 森
バルニ 加藤

- 10:00 ○ 上高地
- 1:00 ○ 横尾BC

川にサカノボリ といふ行為は とも
大変だ。

3時を過ぎると 山は かなり 寒く なる。
BCには 3人の 若者が 稽古を する。

6月5日

新人合宿 A PARTY

Member L. 三野 弘
 飛田 弘
 佐道 弘
 桶 結
 北 沢
 飯 野
 平 間
 朝 見
 小 保
 平 井
 小 口 原

BC	4:15	晴
奥又白河原	5:30	
松崎尾根中野	6:50	
奥又ノ池	9:00	
雪 訓	11:50 37	
奥又白谷出合	14:30	晴
BC	16:00	

6月5日

新人合宿

B PARTY

Member

L. 中村 横士 さん
安田 さん
下平 さん
杉山
安藤
小林
加藤
松下
松岡
伊藤
岡部

6月5日 新人合宿 C PARTY

- Member L 小野さん
中村ユキリさん
内田さん
三矢 飯島 平林 丸後 橋井 浦山 坂部

出発	4:08
松高尾根の取付	5:20
新村橋	6:15
水場	7:20
奥又の池	9:00
雪訓	9:15
	11:40
奥又の池発	11:55
河原で一本	14:25
横尾 BC	15:50

天気 一日中 快晴

感想: 最後の雪訓の日であった。滑落停止の訓練の時
ウルトラマンやでんごり屋は初めてでドキドキしました。
昨日は滑落停止で一度も止りませんでした。下田さんに
詳しい意見をもらいました。今日は止り止りして良かったです。
浦山

No

Date

6月6日

新人合宿

A PARTY.

Member L 三野 弘
 中村 功 弘
 中村 孝 川 弘
 三 矢
 九 後
 服 部
 朝 見
 小 林
 飯 島
 浦 山
 飯 野
 藤 井
 杉 山
 平 林
 伊 藤

BC 祭 4:05
 一 夜 5:05
 赤 沢 前 6:12
 又 出 心 部 7:20
 袋 生 下 8:35
 松 小 肩 9:35
 " 12:10
 B. C. 着

天気: 晴れ

感想: 松ヶ岳へ登りました。
 松ヶ岳の頂上には、おまの正つと暗れとて。
 とては 涼しかりとて。

[飯島]

6月6日 新人合宿 B party

member. L. 飛田 功
豊田 功
小野 功
作道 功
平間
楠 結
小田原
平井
北沢
小久保
岡部
松岡
白藤
松下
加藤

4:05 ○ B.C.
5:05 一ノ尾
6:05 旧 杉沢 | 屋跡
8:35 ○ 殺生小屋
9:30 ○ 杉ノ肩
10:00 ○ 杉 頂上
11:00 start
12:50 旧 杉沢 | 屋跡
16:10 B.C.

感想: 杉の頂上は、とても思い出でした。
宮田さんと下平さんの小杉の上で、おどろのE
見れなくて、残念でした。

(飯島)

18

6/6 D party L 安田 下平

小橋 左ルート

3:30

○ BC

5:15

赤沢岩小屋 山靴をはく。

8:23

肴の小屋 セルバン着

9:20

小橋基部 テボ

橋の肴からトラス(大杖)除雪が残り、おひ時間かかる。

10:30

① 左ルート取り付き 登山人開始

左ルートへのけん垂は残置サバ化がおそく、安田さんは残置を使ったが下平はサバ化を掛り替えて下り。

12:30

登山人終了

13:10

肴の小屋。 中村(苗)さんといはい下る。

14:00

赤沢岩小屋

15:35

B.C

70m X 2p

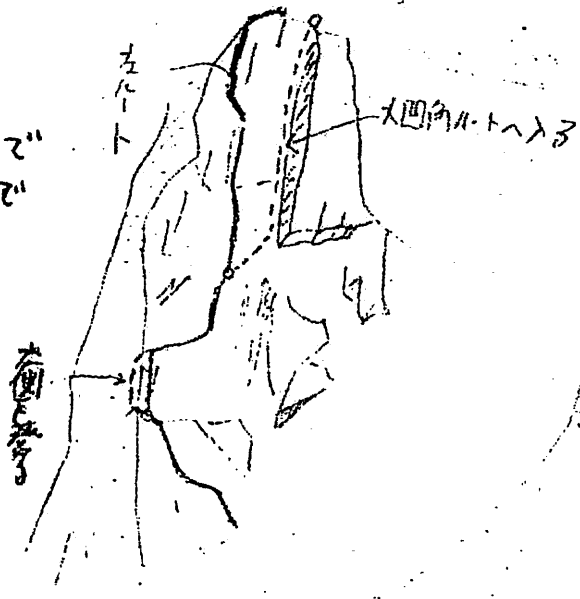
取り付き上の四角は左側をフリーで

登り 2p目は時間もなかつたので

大四角ルットに入ってきた。

天気が良くておもしろい。F.O

by 下平



6日6日 屏風 東稜
L角谷・内田

3:50 T.S 突①

6:15 T2 取り付き点①

12:20 終了 ケース①

1:55 T2

2:45 T4 尾根下

3:20 B.C 着

ルートは大系ビゾリ

No.

Date

6月17日

↑ PARTY 行動

天気晴

9:00 BC

暮参り

10:50 徳沢

12:30 上高地

東壁ルンゼ

△セガワ, トヨダ

5/22

● 上高地まで入山

5/23

16:00 ● 上高地

18:00 ● 横尾

5/24

10:00 ● 横尾

12:10 ● 上高地

ほろもない岩登りだった
(代弁者 427)

間違ったらけの山岳会選び

服部 崇

一、身も心も既にボロボロ。先輩の喜ば
 った。ただけの毎日にもう疲れ果てた後。
 山岳会母人てやめてやる！
 何度も心の中でそう呟いていた。う思えは
 この不幸は既に入部した瞬間運命づけられて
 いたのだ。
 方々ダンスに行。たとき、そこには異様
 風貌をした人が数名いた。瞬間、僕は感じた。
 “母人か変”しかし、その人達の山岳会に
 する説明（それは主に山とは全く無関係）
 を聞いて、さきほどの疑問を、さほど気にも
 とめずに喜びいさんで入部を決めた。今に
 して思えば、“きれいな母花にはトクがある”た
 ったのだ。新歓コンパでのハカ騒ぎの中で、
 と母りの先輩の顔が急にまじり、そし
 て、こう言われたのだ。「おまえ、合宿だけ
 で山岳会を評価する母よ。」その言葉で僕は

合宿の、いや山岳会の前たるかを知、た
地獄のよう母雪訓も終わり、すはらし
にも登り、いよいよ婆婆にもとれると喜ん
いたのもつかの間、まだ一つ残、ていたの
それは芸能部長主宰の新人合宿最後の大会
ント“芸能大会”であった。

そこには鬼のよう母先輩の意外な一面（
性か？）があった。僕は殉の恥らも甘く
ネタを披露する先輩達を見て、あいた口か
えがらなかつた。“オシはあんな風に甘り
く甘い!!”しかし、おるか母僕は自ら墓穴
掘ってしまった。母んだか、と、ても来年
不安。

母にはともあれ合宿は終わった。又し小
の下界の空気はや、ぱりおいしい。とがを
るうと鏡をみると、そこには一人のま、黒
廢人の姿があった。“これでいいのだ”

雪上訓練 in 洞沢

初めて来た洞沢は、なぜか陰気なガスに満ちていた。穂高の峰々はそのガスに隠れ、雄姿を現さない。「権左の洞沢だ。しかし感懐する間もなく横一列が始まった。「足をもち上げろー大抵を上げろんだめ、と見ろお、脇しめろ。ふらつくなアホー」上級生の罵声がとび。うん。この罵声あつてこそ新人合宿と云えぬのだ。などと思いながら雪面に足を蹴り込むと、ずい。とステップが滑れ（ました。すかさず「ボケえ。しっかり蹴り込めアホー」と怒鳴られた。いけない。いけない。

直上。斜上。直降。斜降。トラバース。一通りした後、お祭りのグリセードだ。「これなら高校の時バッチリだったもんね。などと突如自信を持って滑り出した。と、半ばまで滑り降りた時「横すべりしろよ」と下方の先輩が叫んだ。頭も、そして足が突然開ききれない言葉と耳にしてパニックを起した。で、何が何やらわからぬまじりに止まってしまうと、「何じゃそれえ。横すべりにしてないやろ」といかられた。（…グリセードのどこか楽しいんだ。女・5人すわりと並んだ。恐いお兄さん達の前におしなない羊士んが1匹すわりまされ、いじめられるだけじゃないか。…ナンテネ。）

雨具をつけ、ピッケルストップの練習に入った。これは最初からイヤな予感がしていた。「平井、落ちるあす。」と言いつ、下に並んで待っている人達から「オーウ。」と返事が返ってきた。この時ばかりは、恐い兄さん達がとてむ頼むかと思えた。予感的中し、私は頭から落ちてしまった。ドンという鈍い音がして体が止まった。雪まみれになった顔と上げて周囲の状況を見ると、先輩達が総力で受け止めてくれているのがわかった。そして、下平さんは、何故かソコ斜下にふんとんていた。先輩、ありがとりのぞけて。そして、下平さん、2回も体あたりを喰らわせてごめんやない。もう二度と先輩のことを恐い兄さんだんて言いません。

でも一言、言わせてもらつと、先輩のグリセードした後を見ると、右足と左足の間にあつたピッケルの筋が、左足側に残っているのはなぜでしょう。一年生の一部では、これを「均等加重の不思議」と呼んでいます。

(平井)

屏風岩の思い出

屏風岩。その巨大な岩壁を初めて目にしたのは去年のコンチンチン
のことであった。その時はパンフ作道ほか名と名の人をのり道
べに来っていたのだ。その時パンフ作道によくとおぼしう人間が
と開いた時の僕の驚きは大変なものであった。そして約1年、自分で気
付かぬうちに明はあの巨大な岩壁を登ることになっていた。朝、屏風は
彼等から初めた。どうせ今で降りるから靴はぬいでイのた
角谷さんは僕にとうきいのことしてアサキのつまアサキのつぎ人
で行った。僕もそれに従く。1ルセをぬいでT4尾根の取り付
た行かいて行く。CMCの茅モンコリアン君他数名がやってくるし
わさかあり多少あせっていた。そしてT4尾根を登る。「アサキ・4・4ス
アサキかい？」T4尾根はクリコのアサキだと思っていた僕はとて
甘かった。T3でモラリと走るのと見見!!カシタのバイルだ。こ
こは、アサキのものを感しながら僕のものだ。そしていよいよT2
からアサキアサキで東緩へ下慣れたA2にとてとて時がか
かっている。「A2にとてモタイン」僕は思った。垂直でも平なか
をボルト・ルセとだけとたよりにしたすら登る。ウー4、アサキ
風によくと眼下にはとて感動的な景色が広がっていた。屏
風はヤルな！」僕は思った。終了点まで登るアサキ。とてと
て長いアサキを4プラスチックはまたくの乗壁。手の中
で切る。アサキが半分ほど見える1本のボルトにアサキアサキ
集まっている間に僕。足。指とつねはアサキ色になっ
た。T4尾根から1ルセを降りてアサキアサキと川を渡
り。Cへ続く平原を歩いているときアサキとアサキがアサキ
分といふいた。たに今夜のコンチンの不安がちらりと頭
をかすめた。

作文 ↓

「屏風よ……。」

1日続いた雨が止んだ！俺は喜びいそいで雲後へ向った。

瘦歩だ。「冷たい」俺は、薄れる意識と戦いながら、作道を待った。「こけろ！作道！」俺の心は優しかった。

1ルンゼをつめてT4尾根取付きへ。雨に濡れてTEKA. TEKAしているではないか……。しかし、SAN. SANと輝やく陽光にうかれて、死ぬ程重たいザックを背負った。

「お、おちるー。」と思いつつも、あっさりAO。「お、おちるー。」と優しいまなざしで作道を見つめた……。

T4にくると圧倒的な大凹角を大汗をかいて登るとくそ作道は、おもむろに「うおち」と叫んで俺をまたせる。

2P目。作道もおれに負けず、おとらず、ゆっくり登っていく。

ようやく扇岩テラス。交信時間によれば、10.30。重たいザックと縁切りしたくなった俺は、素直に負けをみとめ、怖いもの見たさに、3mmシュリンゲのアブミラダーに乗った。

12.30から懸垂下降し、瘦歩を終えた時、俺はホッリとつぶやいた。

「屏風よ、この力は、必らず返してやるぜ。」

(記 中村タカ)

合宿の反省

今回、上級生がけがをしてしまった。合宿の最下限レベルに、全員無事で下山するということがあるが、それすら守れなかったのは、大きな問題だ。リーダー会でじっくり検討しなければならない。

それはさておき、一年生はよく頑張ってくれたと思う。しかしこちらが驚くほど頑張っていた者もいた一方、明らかに手を抜いていた者もいた。すべて自分自身にはね返ってくることなので、もう一度各自で考えてほしい。体力がないとかうまく出来ないなどという事で悲感することはない。新人合宿は単なるスタートラインにすぎないのだから、これからいかに頑張っていくかがすべてはさまる訳だ。

みんな頑張ってくれてほしいと思う。そのためには、僕たちは努力を惜しまないつもりだ。早く多くの山行を共にできるパートナーに育ってほしいものだ。
(Leader 三野)

SLとして合宿に臨んだが、うまくリーダーをサポートできなかった。T.Sに帰ってから、仕事の流れ、人間の動き特に一年生をうまく動かし、ということに対して役目を果たせなかった。個人的には数回P.Lを助めたが的確な状況判断というよりは、いかげんなかとか、気分的なもので左右されやすかった。リーダー部員となり周囲がよく見えるようになったわけだが、そんなところで過信や甘えがなかったか、よく考えてほしい。一年生はよくがんばりました。
(小野)

一年生が多いため指導が全員にいそわたらなかった。自分から行動と起しを示せばよかったかもしれないが、多少なまけていたような気がする。今まで通りのやり方ではなかなか会全体の統率をとるのはむずかしいと感じた。一年生は一年生なりによくがんばったと思う。今回の統率をこれから先の山行に多くに生かしてほしい。二年生は数が少ないため多人数の上級生と一年生にはさまれてたいへんだったと思う。指導する立場となっていていろいろあったと思うが、とにかくガッツでいられたステップアップしてほしい。
(安田)

今回の合宿は、リーダー部員としてある程度の人数を連れての行動が多かったが、時間配分や、雪訓指導でもっと要領よくできなかったか反省している。また、きめ細かい指導を怠っていた感がある。もっと指導者としての自覚がまだまだ足りないのを痛感した。合宿全体のことはもっとよく目を配り、円滑にすすむよう努力しなければならぬ。1年生はどうぞ御苦労様。

(飛田)

3年になって「自分はリーダーなんだ」と自分に言い聞かせながら行動したつもりであったが、実際にはじつに頼りない上級生であった。しかし上級生は何を考へ、何をこせねばならないかなどということも少しは考へることができた。つがとして下山したのは、自分としてはくせしく、また情けないことであった。(瀬川)

状況判断の能力に乏しく登攀時等、不用に時間に費した。上級生なのに必要な条件を何もとつて満たし得ていなかった。(殊に、見えていない全体を見通して、行動にうつす事。)上級生である以上、下級生に対する礼も己に厳しくありたいと考へた。(中村 貴工)

今回の合宿はリーダー部員として1年生を連れていく初めての合宿だったので入山前から自分なりにどうするか考へておいたのだが、あまり思うようにいかなかった。1年に対してもうここどなるだけになりがちで、もっと注意すべき所は考へておきたら、また体調の悪いときに積極的に動かず他の上級生にたよっていたのはよくなかった。パーティリーダーになった時、判断ミスとして1年生の負担がかかるとよくなかった。次回からはもっとトレーニングをしてまた同じ様な反省にならないようにしていきます。1年生はよくがんばってください。で、次の合宿はもっとがんばって下さい。(中村 幸典)

個人の反省としては、私阿により合宿を2日休んでほしい1年生への指導ができなかった。1年生の人数が多く一人一人に細かい注意がいきとどかなく、もっとうるさく注意すべきだった。

(豊田)

新人合宿において2年生の力強さとこそほとんど見せられなかつた。いやあれが本当の力なのかとわからない。一つ一つの行動を見て1年の手本となる2年生という自覚が少なかつたように思う。入山時はがんばって合宿を引張って行こうと思つてはいたが、思いがとげれず、残念です。また1年生をちゃんとよく見て細かいことまで注意すればよかつたと思つます。

これから合宿、個人山行を努力し、早く本当の2年生になるよう頑張ろうと思つます。
(下平)

2年生として、合宿の原動力とならなければいけないのに、体力的、精神的に弱いため、3年生にたどり着けなれなつて、はつた。2年生という立場をちゃんと考えて行動した。

(作道)

2年生として初の合宿でしたが自分の力なさを思い知らされショックでした。これからもっともっと努力してクイッククラブを引張って行くようにしっかりと2年生にならうと思つました。(内田)

今回の合宿で一番反省すべきであつたのは、自分自身に対する甘さである。今度の合宿ははつきりして肉体的にも精神的にもつらいのであつた。雪訓の時などはつらくなると手を振ってごまかしてめたり、BCに帰つても積極的に仕事をしないこととあり、1年生の数の多さにまかせ、いかに加減にやつてはいたのではないだろうか。細かい点をあげればキリがないが、大きな反省としてはちゃんと自分に厳しくすべきであつたといふことである。次の合宿では今回の失敗を改善するように努力したい。

(浦山)

体力的にも技術的にも精神的にも大変だった。こんなに苦しい思いばかりをしたのは初めてだった。山に対する考え方が少し変りそう。北穂沢、3・4のコースまでの雪渓、奥又白ほとでコワイ感じがした。そのため、よく足をすべらしたりもした。あれから急斜面がコワクなりました。雪面の技術は便利な面と危険な面が背中合わせなので慎重に特に必要とすることがわかった。今までの山に対する考え方が甘かった。合宿において様々な面で甘えを見せてはいたと思いつつ、外でも楽をしようとしたし、疲れた時にはグリセードをいっぱい食べたし、返事も少なかった。でもがんばった面も多かったと思う

(杉山)

今回初めて合宿に参加して先輩がたの山に対する姿勢をみて、あらためて自分の山に対する姿勢を考え直す機会をふえられました。反省としては、まず山行前のコンディション作りの問題がありました。1年以上のプランクがあつたにもかかわらず、ムネニゴエしないでいきなり合宿に参加し、あたりまえのように足道をいためてほいかなりつ山行になつてしまいました。また生活技術や、天気図は机上講習のみと復習することなく合宿に参加し、手際よくできなかったことがある。

(松岡)

私にとって本格的な登山は、これが初体験であつたため、ついに山行になるだろうと思つて、それは私の想像をはるかに越えるものであつた。よつて今回の合宿における感想と云えば、ただただ「ムネ」がたつたという事だけである。反省点に関しては数多くあつたが、第一には自分で考えて行動するという事ができなかった。第二は、合宿前の机上げミにおける、学習内容をほとんど把握してゐなかつたという事。そして第三には体力的な強化を怠つてゐた事である。以上の反省点はこれから個人山行、合宿、自己のトレーニング等で早期に矯正していかたいと思う。

(小田原)

リ-ター-の言葉にあった."やる気"と"根性"が、体力の消えに
負けしめて残念であった。

一年生同志の紅葉の行事ありをじしてした。
Essen などを、もっとしっかりやると早く紅葉を覚えた。
(牧野)

雪上訓練は、とても厳しく僕は何度もくじけそうに
なりましたが、何とか合宿は終了した。自分なりに。

一生懸命はやるのですが、体力的にも技術的にも来じや
ない。体力も、技術も動かさず変えた。

今後登山のたびに一生懸命登りたいと思います。(小林)

今回の合宿はつらかった。特に雪訓は、自分にとり非常に
きびしかった。反省点としては、一年生同いで仕事を、かなり合
してした。やはり紅葉を多く行せば、とれだけ、日常生活
技術が身につくと思ふので、この合宿を頼りに思っています。
それと、この冬芸を覚えてほしい。一年生が大部隊なので2人
と。

(松井)

新合宿は、本当に良かった。しかし、辛いというの
は、

体力的にというより、むしろ精神的にきつかった。これから登山で

精神的弱さをこころすぞ!!

(服部)

まず注意を受けているから、それを(しっかり)守れば、かたは、

雪訓中は、も3人のこと、Bとに、対応から、下を、きと、動かして、

それと、やはり事前のトレーニング不足を感じました。

体力は、も3人ですが、事前の息が、まじ、み、た、い、な、もの、が、足、り、な、い、と、

思っています。

(丸後)

初日から全開でバテて皆に達成感を感じてこそ真先に。
 反省したい。「体力の有無よりも、やる気が問題だ」と先輩に言われたが、
 自分に対して甘くなくていいやる気さえも足りなかった。こんな自分
 では何が穂高の頂上に立つことが出来るのか。
 今後はトレーニングを徹底的に（体力をつけることも）、精神的にも
 強くするのを目標として頑張りたい。（平井）

今年というもとはにかき苦しむつらい念痛だった。根付いてものは、
 ありがたい。早くに（2ヶ月）やるべきこと。しかし、自分で
 頑張ることがあったと思う。（平井）

一歩調子でこの“元気でいよう”と“元気な日々”で生きてきた。
 来るとして、今回の新人合宿は非常に良かった。「頑張る」として
 * 頑張る」とも思った。しかし長い人生でこのくらいのことでは
 1ヶ月、これから何もできない」と思っていた。新人合宿が
 終わった。それは、一歩成長したと思う。50人と話をすることが
 できた。顔も黒くなった。しかし、アイトライにやった。
 今から、もっと辛いことがあってもいいから、頑張りたい。
 （北沢）

1. 心の整理、意識の準備が整ったこと
 * 1ヶ月を思い出したい。
- ・ 今から自分ももっと仕事を頑張りたい。
 - ・ 2ヶ月の練習取りが下手だった。
 - ・ 3ヶ月の練習取りがもっと練習したい。
 - ・ 先輩から一度注意されたことを、しっかりと身に着けるべき。
 - ・ 10ヶ月のトレーニングをして体力をつけるべき。
- （松下）